

平成31年1月4日

羽生市議会議長 斉藤 隆 様

羽生市議会 薫風会 奥沢 和明 (印)

行政視察報告書

行政視察を下記の通り実施したので報告いたします。

1: 背景

市内の課題を解決するため、羽生市と他の自治体の政策を比較・検討し、羽生市の抱える課題に新たな視点から取り組む必要がある。

2: 目的

先進的な政策を実行している自治体から学びを得て、市民福祉の増進に寄与する。

3: 視察参加者

薫風会メンバー: 奥沢議員 松本議員 永沼議員 峯寄議員 丑久保議員

4: 視察概要

1) 日時: 2018年11月13日(火)～14(水)

2) 場所: 宮城県多賀城市 栃木県宇都宮市

3) 視察内容

■宮城県多賀城市

「東日本大震災からの復旧、復興について」・「議会における災害発生時の対応について」

- ・多賀城市における東日本大震災の被害状況概要
- ・災害発生時の対応要領
- ・多賀城市議会BCP(業務継続計画)

■栃木県宇都宮市

全国市議会議長会研究フォーラム

- ・基調講演: 「「地域共生社会」をどうつくるか-2040年を超える自治体のかたち-」
中央大学法学部教授 宮本太郎

- ・パネルディスカッション: 「議会と住民の関係について」

山梨学院大学法学部教授 江藤俊昭

公益財団法人地方自治総合研究所主任研修員 今井照

(有)ひまわり亭代表取締役 本田節

朝日新聞大阪本社地域報道部記者 神田誠司

宇都宮市議会議長 小林紀夫

5. 議員所見

①奥沢議員

市議会議長会の基調講演内であった、新しい家族縁や新しい地縁について、もう少し踏み込んだことを聞いてみたかった。これについて自分なりに勉強し、活動に繋げていきたい。

②松本議員

東日本大震災の悲惨な災害の被害を繰り返さない為の町・村。人々による並々ならぬ対策決意に感動致しました。第13回全国市議会議長会研究フォーラムに出席をして、小規模市町村議会の展望、信頼される魅力ある議会の創造を勉強して参りました。

③永沼議員

多賀城市は先の東日本大震災の津波で約200人の死亡者を出し、市域の1/3が水没するという被害を受けました。当時の消防団の分団長が、現副議長であり、研修に最初から最後までお付き合いいただきました。貴重なお話が聞け、心から感謝しています。

1か月以上、停電が続き、困難を極めた大規模災害時、議員は、どのように活動すべきかの「災害時対応マニュアル」を多賀城市議会は、いち早く作成、運用しています。今回の知見を活かし、羽生市議会も作成に動いています。

④峯寄議員

多賀城市の事例は大いに参考になった。現在羽生市でも災害発生時の議会対応について議論されているので、この視察の内容を有志議員にも紹介し、活かしていきたい。

また、市議会議長会の基調講演も勉強になった。定年が伸びるということは、その人が地域で、例えば自治会などの担いを受ける年齢も上がるという視点には、目を覚まされた。今後の議会で質問していきたい。

⑤丑久保議員

多賀城市の視察で説明下さった伏谷副議長は消防の分団長と議員との兼務の時もあり、今回の視察内容から、最後まで対応してくれた。特に、予期せぬ大震災が起きた時に心掛けることは、①マニュアルがあっても想定外の行動を市民は示す。まず、命の尊さから、逃げるのが第1優先。

②次に食糧の確保、備蓄はあったが、あまりにも避難者が多く、今日、備蓄倉庫建設に着手している。③避難所の確保、市の面積は狭く、避難者の仮設住宅のスペース確保(住まいをどうするか)は大きな用件である。また、議会における災害発生時の対応については、議会人としての基本的行動規範が学べ、羽生市においても参考となる事項であった。